

平成24年度
実施事業

事務事業名 登別市シルバー人材センター補助金

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	3	誰もが安心して暮らせるまちをつくる
施策	2	高齢者福祉の確立
小分類	1	長寿社会の基盤づくり
主要な施策	1	①高齢者の生きがいがづくりの場と機会の充実
事務事業番号	007	事業開始年度 平成 4 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部名 観光経済部 グループ名 商工労政グループ

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	登別市シルバー人材センターの運営に対して補助することにより、高齢者の就業機会の確保や生きがいの充実、社会参加の促進を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	高齢者の就業機会確保や生きがいの充実、社会参加の促進に取り組む登別市シルバー人材センターに対して補助を行う。 【事業実績】 平成25年3月末会員数 382名 受託件数 2,280件
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	高齢者の就業機会の確保、社会参加の促進を図るため、本年度も引き続き、登別市シルバー人材センターの活動を支援する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	・登別市補助金等の事務取扱に関する規則 ・高齢者等の雇用の安定等に関する法律

事業費（財源内訳）の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	8,800	8,800	8,800	8,800	8,800
事業費合計			8,800	8,800	8,800	8,800	8,800

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	① 受託事業契約金額	千円	目標値	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
			実績値	165,026	155,297			
	② 60歳以上人口の会員加入割合	%	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
			実績値	1.8	1.9			

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
登別市シルバー人材センターは、年会費の増額、受託事業の増加や経費節減など収支改善に向けた努力がなされているが、景気の悪化などにより受注金額が減少しており、現在はこれまでの積立金を取り崩して運営している。	市は、高齢者の就業機会を確保するために必要な措置を講ずる必要があることから、引き続き同センターに対して補助金を交付し、その運営を支援していくとともに、収支改善に向け、引き続き努めてもらえるよう要請していく。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 国や北海道とともに、高齢者の就業の機会を提供する団体の育成や就業の機会の確保のために必要な措置を講ずるよう努める必要があるため。
	<input type="radio"/>	② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	<input type="radio"/>	③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	<input type="radio"/>	④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 本格的な高齢化社会を迎え、高齢者の就業意欲の高まりや就業希望が増加している中、長年培われた知識や経験、技術を持った高齢者の社会参加を促進することは、高齢者の生きがい対策として重要であるため。
	<input type="radio"/>	② 市民アンケートの結果から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 シルバー人材センター独自の財政健全化に向けた努力がなされているが、景気の悪化などもあり、これ以上の補助金額の削減は、同センターの運営に支障を来し、目的を達成できないと考えられる。
	<input type="radio"/>	② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	<input type="radio"/>	④ 将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 景気後退による民間企業からの受注減少や高齢者自身が定職を求める傾向があることから数値としての成果はあがっていないが、高齢者の就業機会の確保等について、市民からの声などから一定の成果が感じられる。
	<input type="radio"/>	② 市民、団体等の声から成果を感じられる	
	<input type="radio"/>	③ 目に見える形で成果があがっている	
	<input type="radio"/>	④ 成果の把握は困難である	

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	本格的な高齢化社会を迎え、高齢者の就業意欲の高まりや就業希望が増加している中、長年培われた知識や経験、技術を持った高齢者の社会参加を促進することは、高齢者の生きがい対策として重要であり、就業機会などの場を確保するシルバー人材センターを支援する本事業を維持する必要がある。
-----------	----------------------	---

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
-----------	----

③総合的な評価（当該事務事業の方向性） 《Action》

維持	備考
-----------	----

〔評価区分〕

- ◆拡大（事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業）
- ◆維持（事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施個所等に変更が生じる事業）
- ◆改善（当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業）
- ◆休止（暫定的に休止する事業）
- ◆廃止（事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業）
- ◆終了（事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業）